

教育委員会会議録

令和6年12月20日（金） 午前10時00分 開会
午前10時56分 閉会

1 議事日程

別紙のとおり

2 出席した委員等

飯田靖教育長、度會秀子委員、河野明日香委員、野杵晃充委員、片山裕之委員

3 出席した職員

川口佐織事務局長、坂川智次長兼管理部長、橋本具征教育部長
高木健一教育改革監、山脇正成総合教育センター所長、佐藤孝総務課長
中野幸治財務施設課長、大谷健二教職員課長、清貴康福利課長
小野内茂喜あいちの学び推進課長、加納澄江高等学校教育課長
尾本国博義務教育課長、安楽孝幸特別支援教育課長、祖父江達夫保健体育課長
長坂昌彦 ICT教育推進課長、木全貴治中高一貫教育室長
川田敦行総務課担当課長、山田洋暢教職員課担当課長
稲垣正博あいちの学び推進課担当課長、前田憲一高等学校教育課担当課長
塚田祐介総務課課長補佐

4 前回会議録の承認

飯田教育長が各委員に諮り、前回の会議録は承認された。

5 教育長報告

- (1) 令和6年度教育委員会所管12月補正予算について
佐藤総務課長が、令和6年度教育委員会所管12月補正予算について報告。
飯田教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。
- (2) 愛知県教育委員会教育長給与条例の一部改正について
佐藤総務課長が、愛知県教育委員会教育長給与条例の一部改正について報告。
飯田教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。
- (3) 令和6年12月定例県議会の概要について
佐藤総務課長が、令和6年12月定例県議会の概要について報告。
飯田教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。
- (4) 令和7年春の叙勲候補者選考の代決について
非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第14条第3項の規定により、会議録は別途作成。

(5) 公立学校教員の懲戒処分について

非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第14条第3項の規定により、会議録は別途作成。

6 請願

請願第13号 愛知県下高等学校全日制課程の「計画進学率」施策の復活と充実に関する請願書

飯田教育長が各委員に諮り、「挙手なし」により本請願は不採択とされた。

〔委員の主な意見及び事務局の説明〕

(片山委員)

計画進学率から進学見込率に変更した背景をお伺いしたい。

(小野内あいちの学び推進課長)

中学生の進路希望の多様化に伴い、全日制へ進学する中学生の割合が低下し、計画進学率と進学実績及び進学希望との間の大きな乖離が生じる状態が続いていたため、進学率を毎年度、最近の進学実績と進学希望の実態を反映して算定する方法、具体的には過去5年間の平均値と直近値のいずれか高い方を用いる方法に変更した。

また、計画進学率は募集計画を作るときに進学見込者数を算出するために用いるものであったが、計画と呼ぶことで、達成すべき目標と捉えられてしまうおそれがあるため、呼び方を進学見込率とし、実態に合わせた見込みであるということを分かりやすくした。

(片山委員)

ここ10年程度愛知県の全日制進学率は全国最下位が続いているが、どのように考えているのか。

(小野内あいちの学び推進課長)

全日制高校への進学実績は10年程度全国最下位が続いている一方、通信制課程への進学実績は全国1位となっている。

その要因の一つとして、愛知県には実践的な職業教育を行う高等専修学校が多く設置されている。東京都に次いで全国2番目の31校が設置されており、そこに通うほとんどの生徒が技能連携した通信制高校に同時に入学するため、統計上は通信制課程への進学と整理されることから、その割合が高くなっていることが挙げられる。

また、近年は自分のペースで学習できる広域通信制高校を選択する生徒も増加するなど、中学校卒業者の進路選択の幅が広がっている状況である。

(野杵委員)

愛知県は、進学実績が現状全国最下位の87%となっている。中学生には選択の自由があるということであるが、数字について、愛知県としてはどのように考えているのか。

(小野内あいちの学び推進課長)

進路の多様化によって必ずしも全日制課程に通うわけではなく、自分のペースや学びに合わせた形となっている。数字が低いということはどう捉えるかということもあるが、中学生の実績や希望に合わせた形で進学できるような形で計画していきたいと考えている。

(野杵委員)

現状、県立学校も定員割れが続いているような状況である。門戸は開いているが、全日制課程を選ばない中学生が増えているという認識で良いのか。

(小野内あいちの学び推進課長)

募集計画を作成する際、中学生の進路希望と進路実績を参考に計画しているが、進学実績と募集計画は乖離が生じている。多少全日制課程への進学率が上がるように、実績よりも進学見込率を少し高めにしてるので、どうしてもその分乖離が生じてしまう。

(河野委員)

中学生の希望等を加味しながら作成しているということであるが、仮に全日制課程を希望する生徒が増えれば、実態に合わせて進学見込率も増えるのか。

(小野内あいちの学び推進課長)

進学見込率は過去5年間の平均を取っているので、全日制課程への進学実績と希望が上がればそれも加味して進学見込率も算出していくので、上がることになると思う。

(飯田教育長)

進学見込率は、実態に合わせて中学生の希望や過去を見ながらその平均を取っているので、生徒たちの希望等が動いていけば進学見込率も動くことになる。全日制課程への進学実績が低い状態であっても、それを補う学校が設置されている。子供たちの希望が叶う進学状況にしていきたいと思う。

請願第14号 小学校、中学校における、「部活動」の勝利至上主義の排除、及び、全国大会について、教員の負担0、及び、大会の削減及び、廃止を求める請願

飯田教育長が各委員に諮り、「挙手なし」により本請願は不採択とされた。

〔委員の主な意見及び事務局の説明〕

(片山委員)

全国中学校体育大会について説明をしていただきたい。

(祖父江保健体育課長)

全国中学校体育大会の運営等は、主催者である公益財団法人日本中学校体育連盟が決定している。

日本中学校体育連盟は、全国中学校体育大会の20競技のうち、2027年度から9競技実施しないことを決定している。また、大会の在り方については、2030年に改めて見直しを行うとしている。

(片山委員)

日常の部活動について、小中学校は地域移行や地域連携という大きな課題を抱えながら取り組んでいるところであるが、小中学校の部活動に関する働き方改革への県の指導の姿勢について、教えていただきたい。

(祖父江保健体育課長)

9月に愛知県公立学校働き方改革ロードマップを策定し、骨太の取組のうちの一つとして、部活動改革を挙げている。生徒の部活動全員加入や部顧問の在り方の見直しを進め、部活動の地域移行、地域連携の取組とあわせて、教員の負担軽減を進めているところである。

(野杵委員)

請願者の話の中で、神戸市では部活動がなくなるという話もあったが、愛知県では働き方改革ロードマップを策定し、その中で部活動改革に取り組んでいると思う。愛知県での部活動の地域連携や地域移行の現状を教えていただきたい。

(祖父江保健体育課長)

昨年度から来年度までの3年間を改革推進期間として、54市町村が各自進めている。市町村の実情による部分はあるが、休日部活動を完全に学校から切り離していくという方向性に進んだ市町村もあれば、自治体を中心となって地域クラブをつくり、生徒を指導する方針を取る市町村もある。54市町村のうち、40市町村は既に方向性を定めており、残りの市町村も来年度中に定めることになっている。

(野杵委員)

中学校教員の働き方改革を進めているところであると思うが、部活動の時間が教員の時間外勤務の大半を占めていると思うので、今後も積極的に部活動の在り方の見直しを進めていただきたいと思う。

その一方で、せっかく部活動で練習してきたのにそれを発揮できないのは、生徒たちにとってもやりがいを感じられないと思う。今後、行政主体ではなく、地域連携先やスポーツクラブが主体となって大会等を運営していくことは考えていないのか。

(祖父江保健体育課長)

各競技団体は大会を続けていきたいという意向がある。

また、全国中学校体育大会の県大会については継続していくということであるので、生徒の活躍の場がなくなるということはないと考えている。

(度會委員)

この数年で部活動に対する認識が一気に変わり、部活動を減らし、教員の負担を減らそうという動きになっていると思う。

生徒たちは地域移行を喜んでいるのか、また、地域移行をすることによって保護者の負担は増えないのか。そのあたりはどのように考えているのか。

(祖父江保健体育課長)

部活動の地域移行を進めるにあたり、各市町村の保護者や生徒からアンケートを取り、実態調査をしている。県内54市町村が集まる協議会を愛知県が設置して市町村の意見等を共有し、保護者の負担の在り方や、生徒たちがどのような種目をやりたいのか希望をとる等、全体で連携しているところである。

(河野委員)

大会の運営費について、運営費の範囲内で大会は開催していると思うが、予算の範囲内で行われないということは実際あるのか。

(祖父江保健体育課長)

全国大会等の運営費は各競技団体からの負担金や、大会の参加費等で賄われており、予算の範囲内で行われている。

(飯田教育長)

部活動の地域移行は、昨年度から来年度までの3年間で改革推進期間であるが、地域によってかなり温度差がある。それぞれの地域にあった形で進めていかなければならない。

生徒たちの人数が少ないと、学校の部活動ではチームが組めなくなり、スポーツや文化活動に取り組む場がなくなってしまう。それを解消するために、部活動の地域移行を進めていくということを忘れてはならない。

部活動は教員の貢献によって支えられてきた部分があるが、学校とは切り離して外部指導者に依頼し、教員がきちんと学校業務に集中できるようにすることが必要である。

全国大会は子供たちにとっての夢となるが、負担が大きい中で見直しの時期に来ていると思う。活躍の場をなくしてはいけないので、都道府県や市レベルで負担の大きい大会運営に取り組む等、しっかりと各大会の運営等が実現できるよう、大会主催者等ともコミュニケーションをしっかりと取りながら取り組んでいきたい。

7 議案

第30号議案 愛知県立高等学校学則の一部改正について

小野内あいちの学び推進課長が、愛知県立高等学校学則の一部改正について請議。飯田教育長が各委員に諮り、全員一致により原案どおり可決された。

〔委員の主な意見及び事務局の説明〕

(度會委員)

学科を廃止する学校については、他の科で存続することになるのか。

(小野内あいちの学び推進課長)

令和5年度に全ての学科が再編されて新たな学科が設置されている。

第31号議案 愛知県立高等学校通信制の課程に関する規則の一部改正について

小野内あいちの学び推進課長が、愛知県立高等学校通信制の課程に関する規則の一部改正について請議。

飯田教育長が各委員に諮り、全員一致により原案どおり可決された。

第32号議案 愛知県立高等学校の通学区域並びに群及びグループに関する規則の一部改正について

加納高等学校教育課長が、愛知県立高等学校の通学区域並びに群及びグループに関する規則の一部改正について請議。

飯田教育長が各委員に諮り、全員一致により原案どおり可決された。

8 協議題

なし

9 その他

なし

10 特記事項

- (1) 飯田教育長が今回の会議録署名人として河野委員を指名した。
- (2) 請願第13号「愛知県下高等学校全日制課程の「計画進学率」施策の復活と充実に関する請願書」及び請願第14号「小学校、中学校における、「部活動」の勝利至上主義の排除、及び、全国大会について、教員の負担0、及び、大会の削減及び、廃止を求める請願」について、請願者から口頭陳述したい旨の申し出があり、飯田教育長が前回会議録の承認後、5分以内に限り口頭陳述することを許可した。
- (3) 傍聴人 5名